

第3回検討委員会以降の報告書（案）に対するご意見

資料2

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
1	小田切委員	人口減少を前提として、人口減少を脱却することはもう無理だと思っております。適応することが重要で、いわゆる適応策、人口減少に適応する、転換という意味合いは、たぶんそれを含めているのだろーと思います。もっとはっきり言うと、人口減少に適応するような浜松学という、そんなふうにも考えてもよいのではないかと思います。	7	・浜松市の現状を以下に修正 人口減少局面からの転換・ <u>適応</u> に向けて	いただいたご意見を踏まえて修正しました。
2	小田切委員	「人口減少局面からの転換に向けて」は慎重な言い回しです。しかし、「人口減少局面が続くことを前提として」という表現の方が現代的だと思います。	7	・浜松市の現状を以下に修正 人口減少局面からの転換・ <u>適応</u> に向けて	いただいたご意見を踏まえて修正しました。
3	小田切委員	特定の地域やテーマを学習、研究する『ふるさと学』や『地域学』よりも」というふうになっているのですが、これはたぶん浜松学というのは各地域の、例えば昭和の合併の旧村とか、あるいはもっと遡って、明治合併の旧村でもいいのですが、そういう小さな単位での「ふるさと学」や「地域学」というのが、むしろ前提となるものだと思います。そのような小さな細胞が前提となって、より大きなところで浜松学があり、そのような細胞なしに浜松学を打ち立ててしまうと、上滑りしてしまうと思います。この「よりも」というワーディングが出ているわけではないですが、誤解を生むため、むしろ「これを前提にして」などに書き換えていただいたほうが、いいのかもしれないというふうに思いました。	8	・浜松学のあり方に以下を追加 本市は、 <u>12市町村合併を経て</u> 、広い市域に都市部、市街地、郊外地、中山間地域が併存するとともに、人口の流動性も高く、多様性を持つまちである。 ・浜松学のあり方を以下に修正 特定の地域やテーマを学習、研究する「ふるさと学」や「地域学」が <u>各地域で多岐にわたり展開されており、これを前提として、本市においては</u> 、さらに広い概念で「浜松学」を捉える必要がある。	本市の特性や各地域においてすでに学習や研究が実施されていることを前提として記載しました。
4	小田切委員	「浜松学」を市内各地の「ふるさと学」「地域学」を前提とする「広い概念」であると整理したことは、意義あるものだと思います。	8	修正なし	
5	井熊委員	やはり最初の小中学生のところが一番重要。三つ子の魂百までもという言葉もありますけど、ここで醸成される郷土に対する意識が、こう言うてはなんですけど、その後ほとんどを決めてしまうような気がします。	9 11 24	・浜松学のあり方に以下を追記 こどもや若者の <u>地域への誇り</u> や地域愛を育み ・浜松学の対象に以下を記載 対象とする年代に「 <u>地域のことを理解しはじめる小学生から</u> 」を明記 ・課題への提言に以下を記載。 <u>地域の歴史や伝統・文化に触れる機会をより積極的に洗い出し、子どもたちに体験させ、地域への誇りや地域愛を育むことが重要である。</u>	「地域への想い」を育む上では、特に小中学生年代が重要となることから、あり方、対象、課題への提言部分へ追記しました。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
6	下鶴委員	もっと地域の魅力や価値を学ぶ機会を提供する、また地域の歴史や伝統・文化に触れる機会を積極的に洗い出して、つぶさに子どもたちに、惜しみなくそういうものを体験させることが、すごく重要ではないかと思っています。	9 11 24	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松学のあり方に以下を追記 こどもや若者の<u>地域への誇りや</u>地域愛を育み ・浜松学の対象に以下を記載 対象とする年代に「<u>地域のことを理解しはじめる小学生から</u>」を明記 ・課題への提言に以下を記載。 <u>地域の歴史や伝統・文化に触れる機会をより積極的に洗い出し、子どもたちに体験させ、地域への誇りや地域愛を育むことが重要である。</u> 	「地域への想い」を育む上では、特に小中学生年代が重要となることから、あり方、対象、課題への提言部分へ追記しました。
7	下鶴委員	地域と密着して学ぶ、地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域に学ぶという姿勢は、本当に子どもたちの手応えになる学習であり、大事にしなければいけないと思っております。	9 11 24	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松学のあり方に以下を追記 こどもや若者の<u>地域への誇りや</u>地域愛を育み ・浜松学の対象に以下を記載 対象とする年代に「<u>地域のことを理解しはじめる小学生から</u>」を明記 ・課題への提言に以下を記載。 <u>地域の歴史や伝統・文化に触れる機会をより積極的に洗い出し、子どもたちに体験させ、地域への誇りや地域愛を育むことが重要である。</u> 	「地域への想い」を育む上では、特に小中学生年代が重要となることから、あり方、対象、課題への提言部分へ追記しました。
8	高木委員	浜松学が学問ではなくて、理念や指針のとりまとめになっている落としどころが、少し私の中で違和感がございます。「浜松学」だから、浜松について学ぶという行為の名前があるのですが、出てきているのは理念や指針、その過程がちょっと判然としません。	9 27	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松学のあり方を以下に修正 今回の検討においては、浜松学のあり方として<u>理念や指針を取りまとめることで、行政をはじめ、市民、団体、学校、企業など、オール浜松でこどもや若者に「地域への想い」を育み、こどもや若者が住み続けたい、いつでも戻ってきたいと思う「元気なまち・浜松」の実現を目指す。</u> ・課題への提言に以下を記載 <u>オール浜松で取り組んでいくためには、本委員会で取りまとめた浜松学のあり方を広く行政や市民へ浸透を図り、共通認識にしていくことが重要である。</u> 	理念や指針として取りまとめることで、市民をはじめとする様々な主体が、こどもや若者に「地域への想い」を育むことに積極的に取り組んでいただきたいと考えています。そのためはまず行政の中でしっかりと浸透を図っていく必要があり、浜松学のあり方及び課題への提言に追記しました。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
9	小田切委員	基本理念に、「・・・戻ってくることを望み、選んで・・・」と関係人口を明示する事もできます（p11を受けて）。他方で、それでは対象が薄まってしまうという考え方もあり得ます。	10 10 26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿に以下を追加 子どもや若者が住み続けたい、<u>いつでも</u>戻ってきたと思う「元気なまち・浜松」の実現 ・ 基本理念に以下を追加 浜松で暮らすこと、<u>戻ってくることを</u>望み選んでもらえるよう「地域への想い」を育む。 ・ 課題への提言へ以下を記載 浜松に定住することだけに着目するのではなく、ふるさと住民登録制度や二地域居住などの国等の動きを踏まえつつ、市外在住者とつながり続けるということも視野に入れるべきである。 	進学、就職などの人生の節目において「暮らすこと」「戻ってくることを望み選んでもらうことが目指す方向性であることから、基本理念の表記は原案のままといたしました。
10	小田切委員	「子どもや若者が住み続けたい、戻ってきたいと思う」という目指すべき姿は大変素晴らしいと思います。先ほどの移動前提社会を踏まえると、「いつでも戻ってきたいと思う」という、「いつでも」という言葉が入ることによって、戻ってきてまた出て行くかもしれない、しかし、また戻ってほしいんだという、そういう循環を含めた表現になってくるのかなと思います。	10 10 22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿に以下を追加 子どもや若者が住み続けたい、<u>いつでも</u>戻ってきたと思う「元気なまち・浜松」の実現 ・ 基本理念に以下を追加 浜松で暮らすこと、<u>戻ってくることを</u>望み選んでもらえるよう「地域への想い」を育む。 ・ 浜松学のポイントに以下を追加 市外へ転出する場合にも、それ以前に「地域への想い」を育み、本人が能動的に浜松と関わろうとする意志を<u>持ち、いつでも戻ってくることを選択できるようにする</u>ことが重要である。 	本市においても特に若年層の東京圏への転出などが顕著であり、いつでも戻ってきてもらうという考え方は重要であることから、目指す姿、基本理念、ポイントに追記しました。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
11	下鶴委員	「こどもや若者が住み続けたい、戻ってきたいと思う『元気なまち・浜松』の実現」とありますが、人のつながりを重視し、いつでも帰ってきていいということを良さとしたとき、「元気なまち、やさしいまち・浜松」という方が何となく温かさがあり、皆さんの思っている、いつでも迎えられるというような表現になるのではないのでしょうか。そうすると妊娠、出産、子育てを行いやすいということが言えるのではないのでしょうか。一案です。	10 10 22	・目指す姿に以下を追加 こどもや若者が住み続けたい、いつでも戻ってきたいと思う「元気なまち・浜松」の実現 ・基本理念に以下を追加 浜松で暮らすこと、 <u>戻ってくることを望み選んでもらえるよう「地域への想い」を育む。</u> ・浜松学のポイントに以下を追加 市外へ転出する場合にも、それ以前に「地域への想い」を育み、本人が能動的に浜松と関わろうとする意志を <u>持ち、いつでも戻ってくることを選択できるようにする</u> ことが重要である。	ご意見をいただいた「やさしさ」については、いつでも戻ってくることを選べるまちという形で目指す姿、基本理念、ポイントに反映し、「元気なまち・浜松」はキーワードとして残す形といたしました。
12	小田切委員	「高校生・大学生にはつながりをつくる、地域とのつながりをつくる」と表現されています。そのとおりなのですが、実は地域とのつながりというのは、よくよく見てみると人とのつながりです。地域というふうに表示していますが、特定の固有名詞があって、あの人がいる地域とつながるという、「地域」の前に「人」がいるというのが大多数です。「地域」自体はなかなか見えづらく、景観という形では見えるのですが、もっと強烈には「人」だと思えます。そのような意味において、つながるのは「地域」だけではなくて「人」とつながる。そういう意味では、「地域（人）とつながる」、あるいは場合によっては、「人と地域とつながる」など、つながる対象が「地域」というのは、随分と漠然としているなと思えます。	12 21	・浜松学の手法に以下を追加 地域 <u>や人</u> とのつながりをつくる 地域 <u>や人</u> とのつながりを保ち続ける ・浜松学のポイントに以下を追加 地域 <u>や人</u> とのつながりをつくる機会が市域全体で確保されているとはいいたい。	地域団体や、地域コミュニティへの参画に加えて、地域にいる「人」とのつながりや、それを保ち続けることが重要であることから、「地域や人」と修正しました。
13	小田切委員	世代別に「関心を高める」「つながりをつくる」「保ち続ける」とメイン課題を明確化したことは、大きな前進だと思います。	13	修正なし	
14	高木委員	浜松まつりはすごく大きなイベントなのですが、浜松市民のものであり、外様の方が参加しづらいイベントです。全国から来た人が浜松の何か面白いものに参加できる、言ってみれば琵琶湖の「鳥人間コンテスト」みたいな、みんながそれを目指して頑張れるようなイベントが、ものすごく大きな話ですけども、あったら浜松を好きになれるきっかけが増えるなと思いました。	21	・浜松学のポイントを以下に修正。 高校生が、 <u>地域の大人と対話し、関係性を構築できると、地域の大人が相談相手になるなど、将来的に地域に戻ってくる可能性は高まる。</u>	地域のお祭りや行事などにおいて大人と関わることが将来的に戻ってくるきっかけとして大事であることから、ポイントに追加しました。 また、今後、これまで浜松まつりに関わってこなかった若者たちが、浜松まつりに参加する機会をつくっていく予定です。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
15	井熊委員	浜松まつりは「見る祭り」ではなく、「参加する祭り」だと私も思うからです。要は地元ではない人も参加できる工夫が必要で、徳島の阿波踊りは県外の人に参加できますよね。〇〇連で別に作ってその場で教えて参加できるようにしている。浜松まつりもできるとは思いますけど、なんでそれをやらないですかね。 大学生になっても帰ってきて祭りに参加したい、あのおじさんまだ元気にいるかなと。そのような先輩方からいろいろ教えられること自体は、地元に対する愛着が増す1つの理由になっていく気がします。	21	・浜松学のポイントを以下に修正。 高校生が、 <u>地域の大人と対話し、関係性を構築できると、地域の大人が相談相手になるなど、将来的に地域に戻ってくる可能性は高まる。</u>	地域のお祭りや行事などにおいて大人と関わる事が将来的に戻ってくるきっかけとして大事であることから、ポイントに追加しました。 また、今後、これまで浜松まつりに関わってこなかった若者たちが、浜松まつりに参加する機会をつくっていく予定です。
16	高木委員	就職やくらしなどの情報を親を通じて若者に伝えるということは、青年心理学の視点からすると、そこに親が出るのはちょっとと思います。	23	課題4「若者の親へのアプローチについて」を削除。	本市における暮らしや就職に関する情報を若者の親へ伝えることもアプローチのひとつとして検討していましたが、浜松学の対象として親世代が直接的な相手ではないことや具体的な手法が定まらないことから、課題から削除しました。
17	井熊委員	親がどうのこうのということもありますけれど、経済的な問題も含めてすごく広範囲な問題なので、あえて言うならば、子どもが親へどうのこうのというのは、なかなか難しいことではないでしょうか。	23	課題4「若者の親へのアプローチについて」を削除。	本市における暮らしや就職に関する情報を若者の親へ伝えることもアプローチのひとつとして検討していましたが、浜松学の対象として親世代が直接的な相手ではないことや具体的な手法が定まらないことから、課題から削除しました。
18	井熊委員	「のびゆく浜松」の活用状況の中で、各学校の先生により、頻度、ばらつきがあるというお話でしたけど、頻度、ばらつきがあってはならないような気がします。これは大変重要な副読本でありますから、一定の時間をかけて、必ず子どもたちに伝えるという、そのようなものが必要のような気がいたします。 「のびゆく浜松」を使って、そこから先何があるのかということまで考えていくといいかなと思いました。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松市の特徴、産業、歴史等をまとめた教材である「のびゆく浜松」は、地域を知る上で素晴らしい資料であり、更なる活用を検討すべきである。</u>	本検討委員会の中で「のびゆく浜松」については重要視する声を多くいただいているため、課題への提言に明記しました。 また、今後、教育委員会とも調整を図ってまいります。
19	小田切委員	もちろんいろいろな方針があるにしても、3分の1以上は「のびゆく浜松」を素材にして議論する、あるいは地域に飛び出るなど、そういった大きな縛りがあってもいいのかなと思いました。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松市の特徴、産業、歴史等をまとめた教材である「のびゆく浜松」は、地域を知る上で素晴らしい資料であり、更なる活用を検討すべきである。</u>	本検討委員会の中で「のびゆく浜松」については重要視する声を多くいただいているため、課題への提言に明記しました。 また、今後、教育委員会とも調整を図ってまいります。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
20	高木委員	次期学習指導要領で、少し弾力化して時間数に余裕を持たせようという話があるため、思い切って、その分で浜松の学校は「のびゆく浜松」を勉強するというものもあるのかなと思います。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松市の特徴、産業、歴史等をまとめた教材である「のびゆく浜松」は、地域を知る上で素晴らしい資料であり、更なる活用を検討すべきである。</u>	本検討委員会の中で「のびゆく浜松」については重要視する声を多くいただいているため、課題への提言に明記しました。 また、今後、教育委員会とも調整を図ってまいります。
21	高木委員	「のびゆく浜松」を学校の生徒・児童以外の方が、読めるようにしていただけないかと思えます。それこそ市外から来られた方が、浜松を知って、浜松を回る方が面白いと思えます。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松市の特徴、産業、歴史等をまとめた教材である「のびゆく浜松」は、地域を知る上で素晴らしい資料であり、更なる活用を検討すべきである。</u>	本検討委員会の中で「のびゆく浜松」については重要視する声を多くいただいているため、課題への提言に明記しました。 また、今後、教育委員会とも調整を図ってまいります。
22	下鶴委員	「のびゆく浜松」を読むことで、浜松の魅力を、一番大事な小中の時期に認識することができます。わがふるさとはこういうところであるということは、読んだ本人にとっても背骨がぴんと伸びるような思いがするのではないかなと思いました。今後とも「のびゆく浜松」については、教育総務課や教育センターを通じて伝えていきたいと思っております。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松市の特徴、産業、歴史等をまとめた教材である「のびゆく浜松」は、地域を知る上で素晴らしい資料であり、更なる活用を検討すべきである。</u>	本検討委員会の中で「のびゆく浜松」については重要視する声を多くいただいているため、課題への提言に明記しました。 また、今後、教育委員会とも調整を図ってまいります。
23	高木委員	部活動の地域展開は、中学生だけを集めた地域のチームになるのではなく、もっと市民と共に何かやるというところに展開できたらいいなとすごく思っています。これからのことなのですけれども、いろんなスポーツセンターに、近所の子もだけになってしまいかもしれないけれども、中学生・高校生にもっと積極的に行っていただくような手立てがとれると、地域のおじさんやおばさんの知り合いが増える。少し市民としての自覚になっていくかなという気がします。	24	・課題への提言に以下を記載。 <u>中学校の部活動の地域展開は、学校から地域へと活動主体が変わることから、中学生が地域や人につながる機会となる可能性を秘めている。</u>	本市においても、部活動の地域展開を進めている中で、地域クラブ活動が同世代や地域の大人など、多くの人とつながり深めていく機会となり、さらにそのつながりを深めていく機会となりえることから、課題への提言部分へ追記しました。
24	下鶴委員	浜松まつりは、高校生などに地元愛着心を育むために、すごく効果的なのかなと思います。それも参加ではなく参画することが大事です。自分たちが祭りを作っているという思いをさせていただければ、先輩に教わったことを引き継いでこうしていこうという、そのような意識になればもっともっと違う、浜松まつりをこういうふうにしたいという思いが前面に出ると、自分たちでつくっていく、新しい祭りをつくっていく。もちろんいいものを引き継ぎながら。そうすれば浜松の未来は安泰かなと考えています。	25	課題への提言に以下を記載。 <u>若者を地域や人につなげるためには、取組に参加させるだけではなく、主体的に参画できるようサポートすることが重要である。</u>	若者が主体的に参画できる形が重要であることから、課題への提言部分へ追記しました。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
25	高木委員	地元の活動への巻き込み方なのでしょう。「やりなさい」というのではなく、多分、お客さんみたいに「中学生はこれをやりましょう」と決められたことをやるのではなく、「君たちで考えてやってごらん」というところが必要になるかなと思います。	25	課題への提言に以下を記載。 <u>若者を地域や人とつなげるためには、取組に参加させるだけではなく、主体的に参画できるようサポートすることが重要である。</u>	若者が主体的に参画できる形が重要であることから、課題への提言部分へ追記しました。
26	高木委員	大人が協力はするが、主体は自分たちだという形の巻き込み方をしないと、たぶん面白くないのでしょう。	25	課題への提言に以下を記載。 <u>若者を地域や人とつなげるためには、取組に参加させるだけではなく、主体的に参画できるようサポートすることが重要である。</u>	若者が主体的に参画できる形が重要であることから、課題への提言部分へ追記しました。
27	下鶴委員	まさしく浜松の魅力を高校生が実感して、そしてそれをどう生かしていくかというような記事でして、大変勇気づけられたものです。 一過性ではなくこれを継続的に、一部の子ではなく、これが全部の子どもに広まっていくという、これからはそれが検討課題ではないかとも思っております。	25	・課題への提言に以下を記載。 <u>高校による素晴らしい取組などについて、一過性ではなく継続的に、一部ではなく多くの若者に広めていく工夫が必要である。</u> <u>若者が地域や人とより深く関われるよう、財政面でも支援する仕組みがあると良い。</u>	高校による先進的な取組の横展開を図ることや、同世代の若者と一緒になって取り組むことが重要であることから、課題への提言部分へ追記しました。
28	高木委員	高校生たちの探求の成果を表彰するような制度はありませんか。そのような制度によって、若い子たちが地域について考えているということを、他の世代が目にもすることも大事ななと思いました。	25	・課題への提言に以下を記載。 <u>高校による素晴らしい取組などについて、一過性ではなく継続的に、一部ではなく多くの若者に広めていく工夫が必要である。</u> <u>若者が地域や人とより深く関われるよう、財政面でも支援する仕組みがあると良い。</u>	高校による先進的な取組の横展開を図ることや、同世代の若者と一緒になって取り組むことが重要であることから、課題への提言部分へ追記しました。
29	小田切委員	教育・若手連携推進事業や担当課長の配置は、本委員会の検討内容の具体化として、とても大きな実践だと思います。その際、高校教育改革の動きもあり、高校生へのアプローチ（探究学習への対応も含む）のボリュームをさらに強めてもよいかもかもしれません。 ※教育委員会や県との役割分担もありますが、あえてそこを突破する機会（チャンス）	25	・課題への提言に以下を記載。 <u>学校と地域の連携や、探究活動の深化などを促進する国の高校教育改革を踏まえた取組を注視していく必要がある。</u>	文部科学省において高校教育改革に関する基本方針が策定され、高校の探究活動は地域とのつながりにおいて非常に重要な動きであることから、課題への提言部分へ追記しました。

No.	委員	ご意見	頁数	報告書への反映	市の考え方
30	小田切委員	いつか戻れる選択肢があり、戻ってもまた出る選択肢もある、つまり二者択一ではなく、ある種のグラデーションであると考えた瞬間に、この「誇りの空洞化」も、また別の局面に入ってくると思います。 おそらく今はそのようになりつつあるということだとすれば、まだ二者択一的に考えられている方に対して、今は出て行っても職場もないからそうなんだろうけど、将来的にはいろいろ移住者もいるし、こういうライフスタイルもあるよということに親世代、親世代より上の世代かもしれませんが、伝えるということに意味があるのではないかと思います。	26	・課題への提言に以下を記載。 <u>浜松に定住することだけに着目するのではなく、ふるさと住民登録制度や二地域居住などの国等の動きを踏まえつつ、市外在住者とつながり続けるということも視野に入れるべきである。</u>	関係人口も重要な対象であることから課題への提言部分へ追記しました。
31	小田切委員	「地域への想いを育む上で必要な体制」では、市内在住の若者や関係人口とつながり、関わるのが、地域それ自体の活力の増進にもつながるとする視点も必要ではないでしょうか。つまり、「地域への想いを育むために地域、学校、行政、団体などにより・・・」を「地域への想いを育み、同時にそれを地域自体の活力とするために地域、学校、行政、団体などにより・・・」としてもよいかもしれません。	27	・課題への提言に以下を記載 地域への想いを育み、 <u>同時にそれを地域自体の活力とする</u> ために地域、学校、行政、団体などにより、どのような体制づくりや役割分担が必要か。	地域への想いを育むことが地域の活力を生むことにつながるため、課題への提言部分へ追記しました。
32	井熊委員	この小中学生を対象とした取組事例として「のびゆく浜松」の副読本活用が紹介されています。 私はこの事例を基にさらに発展させた具体的なプランをご提案したいと思います。 それは、【浜松かるた】の制作と【かるた大会】の実施です。 資料には『のびゆく浜松』小学校編にあとがきに『この「のびゆく浜松」を読み、様々なことについて調べることで浜松のことをさらに好きになり、私たちの浜松を誇りに思うようになるでしょう。』とあります。この狙いをさらに強化するための方策となります。		修正なし	小中学生を主としたこどもや若者に対して、地域愛とともに地域への誇りを育むことが重要であるため、のびゆく浜松のさらなる活用の検討をはじめ、様々な主体による地域への誇りや地域愛を育む取組の促進を図ってまいります。